

## 3 スポーツ指導者

### 3-1 1番目に「よく行った」運動・スポーツにおける指導者

過去1年間に1番目に「よく行った」運動・スポーツについて、スポーツ指導者の有無をたずねた。全体では、指導者が「いる」と回答した者は29.9%、「いない」と回答した者は70.1%であり、2011年調査と比較すると、指導者がいる割合は43.0%から29.9%と13.1ポイント減少した(図3-1)。

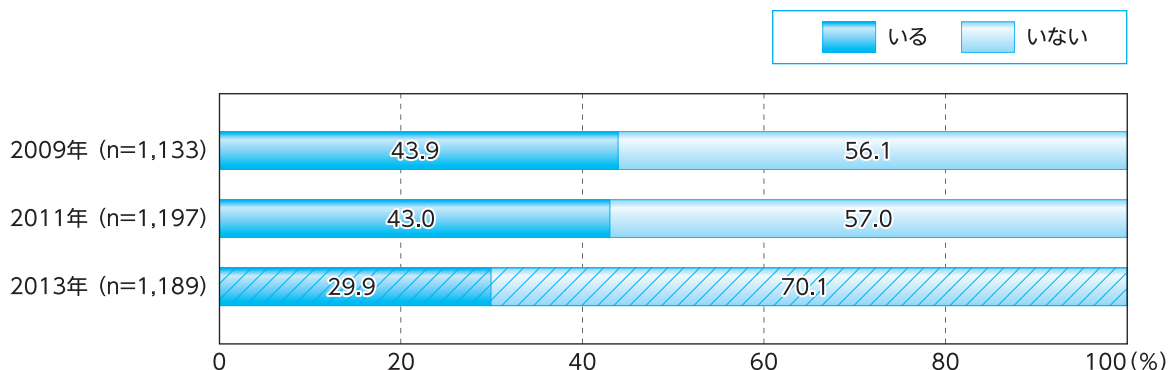
性別にみると、男子では指導者が「いる」と回答した者は34.4%、女子では25.2%であり、男子に比べて女子は指導者がいる割合が低い(図3-2)。

就学状況別にみると、未就学児22.4%、小学1・2年29.5%、小学3・4年35.6%と、学年が上がるにつれて指導者がいる割合は高くなる。

性別・就学状況別にみると、指導者のいる割合は、未就学児では男子25.7%、女子18.7%であり、小学3・4年では男子41.2%、女子30.6%であった(表3-1)。その割合の差は、未就学児では7ポイントであったが、小学3・4年では10.6ポイントと、学年進行にともなって大きくなる。また、過去4年間の推移をみると、男女のすべて

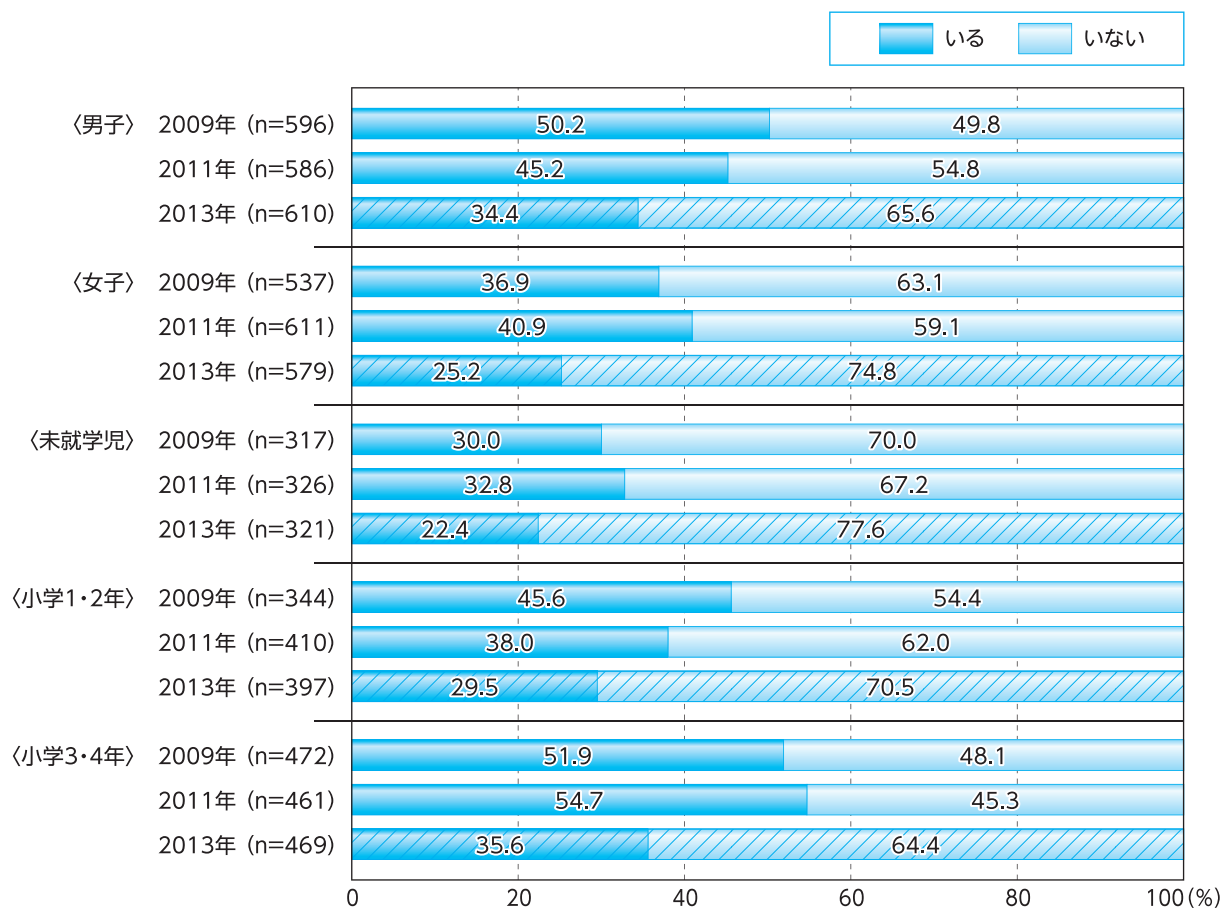
の学年において2009年調査と比べて減少傾向にある。特に、小学1・2年と小学3・4年の男子においておよそ20ポイントの減少がみられる。

運動・スポーツ実施頻度群別にみると、低頻度群61.7%、中頻度群35.9%、高頻度群17.7%と実施頻度が高い者ほど指導者のいる割合は低くなる(図3-3)。10代では、実施頻度が高くなるにつれて指導者がいる割合も高くなるが、4~9歳では運動あそびには指導者は関与せず、スポーツ系の種目には指導者が関与する。運動あそびが中心の年少児は自ずと指導者の影響は小さくなる。4~9歳の運動・スポーツ実施状況として、よく行った種目をみると、「おにごっこ」「自転車あそび」「ぶらんこ」などが上位にあがっている(表1-5, p.46)。実施頻度の高い子どもは、普段運動あそびを多く行っており、指導者が関わる割合も低くなる。一方で、低頻度群の6割が指導者から指導を受けて運動・スポーツを行っている。実施頻度の低い子どもは、普段の運動・スポーツ活動が習いごとを中心とした活動である状況がうかがえる。



【図3-1】スポーツ指導者の有無の年次推移

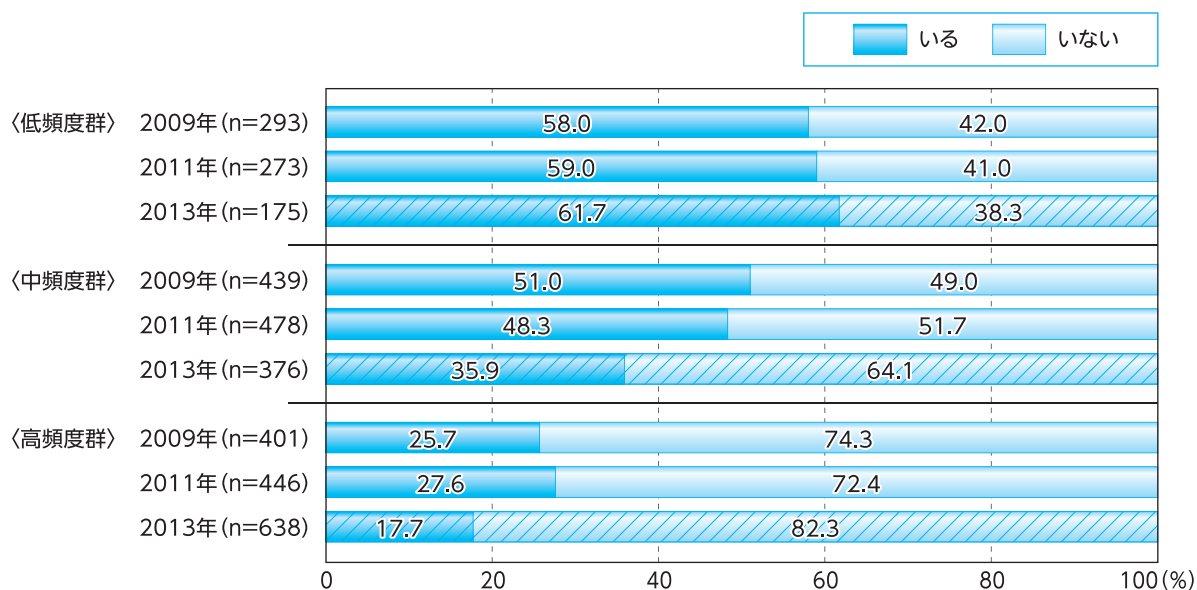
\*過去1年間に行った最も実施回数の多い種目を分析対象とした。  
資料：笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2013



【図3-2】スポーツ指導者の有無の年次推移(性別・就学状況別)

\*過去1年間に行った最も実施回数の多い種目を分析対象とした。

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013



【図3-3】スポーツ指導者の有無の年次推移(頻度群別)

注1) 過去1年間に行った最も実施回数の多い種目を分析対象とした。

注2) 実施頻度群は2009年、2011年の調査は最大3種目まで、2013年の調査は最大5種目までの回答を分析対象とした。

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013

【表3-1】スポーツ指導者の有無の年次推移(性別×就学状況別)

(%)

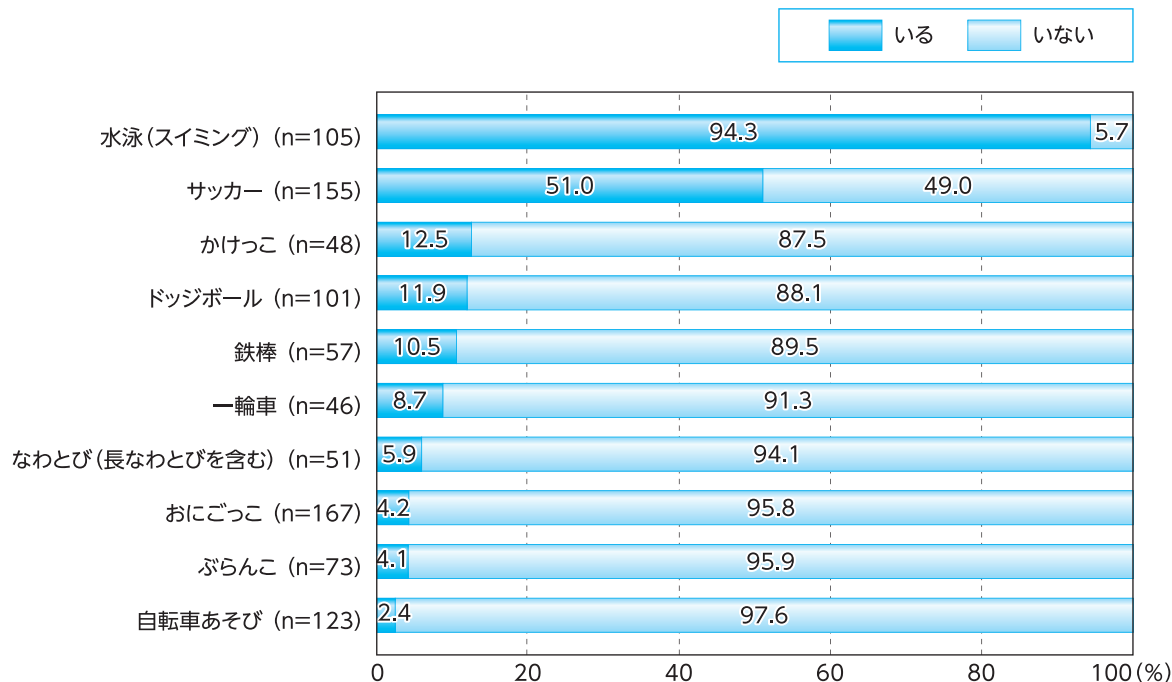
2009年				2011年				2013年			
性	就学状況	いる	いない	性	就学状況	いる	いない	性	就学状況	いる	いない
男子	未就学児(n=174)	29.9	70.1	男子	未就学児(n=143)	30.1	69.9	男子	未就学児(n=171)	25.7	74.3
	小学1・2年(n=181)	56.4	43.6		小学1・2年(n=216)	40.3	59.7		小学1・2年(n=217)	34.6	65.4
	小学3・4年(n=241)	60.2	39.8		小学3・4年(n=227)	59.5	40.5		小学3・4年(n=221)	41.2	58.8
女子	未就学児(n=143)	30.1	69.9	女子	未就学児(n=183)	35.0	65.0	女子	未就学児(n=150)	18.7	81.3
	小学1・2年(n=163)	33.7	66.3		小学1・2年(n=194)	35.6	64.4		小学1・2年(n=180)	23.3	76.7
	小学3・4年(n=231)	43.3	56.7		小学3・4年(n=234)	50.0	50.0		小学3・4年(n=248)	30.6	69.4

\*過去1年間に行った最も実施回数の多い種目を分析対象とした。  
資料:笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013

### 3-2 「よく行った」運動・スポーツ種目別にみたスポーツ指導者

過去1年間に1番目に「よく行った」運動・スポーツの上位10種目について、スポーツ指導者の有無をみると、指導者が「いる」と答えた割合は、「水泳(スイミング)」が94.3%と最も多く、「サッカー」51.0%、「かけっこ」12.5%、「ドッジボール」11.9%、「鉄棒」10.5%と続いた(図3-4)。3位の「かけっこ」以降は、運動あそびの種目であり、8割以上は指導者がいない状況で行われている。「水泳(スイミング)」は、4～9歳の子どもにおいて

最も実施率が高い習いごとの種目であり、指導者のいる割合が9割以上である結果とも連動する(表8-1, p.76)。また、「サッカー」はスポーツ系の種目としては、「水泳(スイミング)」に次いで実施率の高い種目であり、過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目としても実施率は増加傾向にあるが、指導者のいる状況は半数であり、仲間同士の自由な活動としてもよく行われている様子がうかがえる。



【図3-4】実施種目(1番目に「よく行った」種目)別にみるスポーツ指導者の有無(上位10種目)

資料:笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013